

地域と子どもの熟議「ランチミーティング」の開催

～仙台市立愛子小学校 学校支援地域本部～



愛子小学校は、仙台市西部、仙山線愛子駅の南側に位置します。学校の南には御殿山や蕃山などの里山、月山池や斎勝沼が広がり、広瀬川も流れる自然豊かな地域です。また、学区内には平成20年7月に開台した仙台市天文台や、諏訪神社など文化的歴史的施設も揃っています。

【ランチミーティングとは？】

愛子小学校では、地域の方と児童が給食を共にしながら、自分たちの学校生活における課題をテーマに、その解決策を考える話し合い活動を毎年1回行っています。今年度は、夏休み前に6年生の児童が参加しました。事前に、地域の方が扮する“王様”と“死神”から、「メディアコントロール^{※1}のアイディアを考える」というミッションを課され、各クラスで話し合いが行われ、自分たちの意見をまとめました。当日は、地域の方々と代表児童が給食を囲みながら、熟議^{※2}を重ね、たくさん意見を出し合うことができました。

※1 スマホやPC等の電子メディアとの関わり方を改めて見直す機会とし、生活習慣を改善していくこと

※2 1つのテーマについて、みんなでよく考え、じっくりと話し合うこと

子どもの声

話せるって、うれしい。聞いてくれるって、ありがたい。

ランチミーティングの様子



○自分の意見を出すときに、夏休みにどうすればメディアの利用時間を減らせるかを考えながら活動できました。実現が難しそうなアイディアでも、地域の方が真剣に話を聞いてくださったので、安心して話すことができ、とても楽しい時間になりました。

○自分に自信がなかったけれど、思い切って発表したときに「その考え方、いいね」と言ってもらえて、とてもうれしかったです。また、何か行動したときに「ありがとう」と言わされた瞬間、自分の行動が誰かの役に立ったのだと実感できて、心が温かくなりました。

地域の声

こどもたちの喜びや成長が私たちの原動力！



右:運営協議会会長 郡山 慎一さん
こおりやま しんいち

左:PTA会長 李 曜冬さん
り シャオトン

今回のランチミーティングは、「愛子小学校コミュニティ・スクール運営協議会」の皆さん企画・運営しました。

運営協議会会長の郡山さんは、「こどもたちのために、学校と協力してもっと何かしたい。こどもたちの喜ぶ姿を見ると、私も元気になります。だからこそ、こどもたちに恩返ししたくなる。その好循環が活動の原動力です」と語ります。

また、PTA会長の李さんは、「自分のチャレンジは、地域のチャレンジでもあり、こどもたちのチャレンジにもつながります。その中で、こどもたちが笑顔になる姿や成長する様子を見ることが、私の喜びのひとつです」と話します。

「こどもたちのために活動する」という思いを強く感じました。

学校の声

『いつもこどもを真ん中に』が私たちの活動理念！

話し合いの様子



愛子小学校の千葉教頭は、地域との交流活動について次のように話しています。

「愛子小学校では、『いつもこどもを真ん中に』を活動理念とし、学校（教職員）、家庭（保護者）、そして地域の三者がつながり、協働してこどもたちの豊かな成長のために、実践と評価を繰り返す仕組みを構築しています。その中でも、地域との交流活動は、こどもたちの様子に目を配る大人の数を飛躍的に増やすことができます。これにより、いじめの未然防止や兆候の早期発見の可能性が高まり、地域全体でいじめが起こりにくい環境をつくることが可能になると思います。学校と家庭だけでは網羅しきれない部分を地域が補完することで、いじめの抑止力として大きな意味を持つと考えています。」

このような地域との連携は、こどもたちの安心・安全な学校生活を支える大きな力となっているのではないでしょうか。



【まとめ】

愛子小学校では、地域と学校が手を取り合い、こどもたちの笑顔を生み出し、それを守り続けるために、それぞれの立場からできることを考え、協働して活動していることが分かりました。取材の中で、私たちの目に最初に飛び込んできたのは、地域の方々や教職員の温かな笑顔でした。「こどもたちが喜ぶためには」「こどもたちの成長のために」と語るその表情には、こどもたちへの深い愛情と願いが込められていました。その思いは、こどもたちに「安心感」と「意欲」を与え、日々の学校生活を豊かに彩っています。これからも、こどもたちの笑顔を真ん中に、地域と愛子小学校の協働は、未来へ向かって力強く歩み続けていきます。

